

市史編さん室 事務局活動報告

(令和四年一月～二月)

I 古文書等調査の概況

一 古文書等調査の概況

市史編さん室では、市内にある古文書等の歴史資料の保存、整理、研究として、また、各専門部会活動の資料に供するため、目録作成・写真撮影等の基礎的な調査を行っている。

令和四年(二〇二二)一月から一二月の間に、新たに一三件の文書群(七、六〇五件)を借用(うち一件寄贈)して調査を行っている。一方、令和四年(二〇二二)一月から一二月の間に調査を終えた文書群は一二件(七、二三四点)となった。寄贈・寄託文書は六件あり、一四

三頁を参照されたい。調査終了文書については、以下、個別に解説を付した。これにより、平成一九年度から二
三六件(総点数約九万六千点)の調査を終えたことにな
る。なお、令和四年一月段階で五七件(約八万件)の文
書群を調査中である。こちらも随時調査を進めていると
ころである。

また、埼玉県立文書館をはじめとする市外の史料保存
機関で所蔵している古文書等についても、随時調査を進
めている。

(文責 水品 洋介)

二 調査終了文書の紹介

江波 荻原彌一家文書 一一点

所蔵者の荻原彌一氏は市内柿沼の出身であるが、長年にわたり母の実家にあたる内田家を守ってこられた経緯があり、今回調査させていただいた文書等も、代々内田家に伝わるものである。内田家は江戸時代から続く家柄であるが、彌一氏の祖父内田兵三郎は、明治二年（一八八九）の長井村発足当初から村役場の書記や助役、村長を務め、小学校や役場の建設に尽力するなど、明治から大正期にかけて村政の中樞を担い、近代の村の発展を支えた人物である。

今回の全一一点の文書等は全て江戸時代の信仰を示すもので、元文五年（一七四〇）に内田貞七が西国三十三ヶ所巡礼の際に身に着けた笈摺おひすりや、宝暦六年（一七五六）に授けられたと思われる血脈けちみやく（系図）、権大僧都天台伝灯沙門大阿闍梨長福円詢から内田七郎左衛門が授与された「作法」、高野山金剛峰寺の摩射除御守、高野山中院御房龍光院の摺物（弘法大師御影）、お札、摺仏等がある。いずれも江戸時代から内田家が約二八〇年以上もの間、

大切に守り伝えて来たもので、当時の人々の信仰の様子を知る上で大変貴重である。

令和二年一月に借用し、整理が終了したため、同四年二月に所蔵者へ返却した。

（文責 小林久美子）

曙町 齊藤忠彦家文書 五九点

今回調査させていただいたのは、全て齊藤忠彦氏の父齊藤通雄氏に関係する書類・書籍類である。齊藤通雄氏は、明治四四年（一九一一）生まれ、市内間々田の出身で、男沼村役場の書記を務め、その後、熊谷市役所近くで喫茶店「飛行船」や煎餅工場等を経営された。

この中で一番古いものは、昭和九年（一九三四）に明仁親王の降誕を記念して発行された大里郡内の市町村役場吏員の写真集『御降誕記念市町村吏員写真帖』である。内容は、各役場の玄関前で撮影された村長と職員等のいわゆる集合写真だが、合併により現在は廃止されてしまった町村がほとんどであり、各地域の当時の様子を知る上で貴重な手がかりとなる。なお、男沼村役場の写真には、書記をしていた当時の通雄氏の姿もある。

また、通雄氏は、昭和六〇年代から平成初期に宮町地区の自治会長を務め、同時期に実施された第二本町区の戸隠山車修理及び山車収納庫建設にあたっては堀口熊五郎氏等とともに（実行）委員会の常任委員・相談役として名を連ねており、「平成元年度第二本町区戸隠山車修理及び山車収納庫建設寄附募集趣意書」等、その関連書類もある。他にも、この時期に高城神社の総代も兼ねていたため、昭和天皇の病状悪化に伴う神事の自粛、御大典記念の玉垣修復等、お代替わり前後の地域社会の動静がわかる書類も見られる。

これらは、昭和から平成へと移り変わる時期の地域の様子を記録する資料として大変貴重である。他に、日記七冊、家族写真、昭和一〇年代の書道関係の書籍等もある。

本文書群は令和三年一月に借用し、整理終了後の同年二月に所蔵者へ返却した。

（文責 小林久美子）

上奈良 並木集会所文書 五点

令和三年（二〇二二）一二月に、仏像・仏画調査の一

環で上奈良並木集会所を訪問した際に現地調査した近代・現代文書である。本文書群は、小字（廓）の並木単位で残存した区有文書といえる。文書の作成年代は、明治期二点、昭和期三点となるが、一部昭和戦後まで書き足されている。初見は、明治三六年（一九〇三）正月「並木廓総代諸費控帳」である。同年二月「手長男神社・根本神社屋根修」「収支控帳」は、手長男神社と根本神社の屋根修復に関する収支を控えた帳簿であろう。前述の「並木廓総代諸費控帳」は、明治三六年から昭和六〇年（一九八五）まで並木廓の総代が諸費を控えた帳簿であり、総代が交代するたびに帳簿に書き足されて現在まで保存されている。昭和五年（一九三〇）一月「床堀当番人控帳」は、同四年（一九二九）二月一日から二二年（一九四七）一〇月一九日までの記録があり、概ね四人で当番を担っていたことがわかる。最後に、昭和一五年（一九四〇）一二月「並木前隣保班順位帳」、「並木後隣保班順位帳」がある。隣保班とは、戦時体制下で国民総動員するために作られた末端組織のことで、昭和一五年九月内務省訓令の「部落会町内会等整備要項」に基づき、部落会や町内会の下部組織として一〇戸内外の単位

で編成され、防空、防火、防犯、国民貯蓄、物資配給の円滑化を目指したものである。本史料は当時の歴代班長、部落惣代を記したものである。

本文書群は、近代・現代の小字（廓）に残る区有文書として貴重であり、調査が終了した後も、並木集会所で大切に保管されている。

（文責 水品 洋介）

中西 柵沢家文書 二八八〇点

平成二七年（二〇一五）三月に借用した近世・近代・現代文書である。作成年代の内訳は、近世二一点、明治期七八点、大正期一二二点、昭和期一一七一点、平成期一〇三点、近代推定二二二点、年代不詳一一七三点で、昭和期のものが多い近世・近代・現代文書である。年代不詳の多くは、短冊・色紙などで、柵沢慶治の作品が大半である。初見は、書籍では、享保三年（一七一八）五月「沢山下」の刊本である。文書の初見は、元文五年（二七四〇）二月「連判証文之事」である。文書群の特徴は、文書、軸、短冊、色紙に大別出来る。俳人柵沢慶治の代のものが大半であるため、近代から現代にかけて

のことが多い。

慶治は、略歴によると、明治三二年（一八九八）二月七日生まれ、大正一一年（一九二二）成田村青年団長就任、昭和一六年（一九四二）熊谷市農会副会長就任、同一七年（一九四二）熊谷市議会議員に当選、昭和二二年（一九四七）熊谷市公安委員に就任する。歌人活動は、大正五年（一九一六）俳句雑誌「ホトトギス」に作句発表、昭和七年（一九三二）短歌に転じ歌誌「アララギ」に発表、同二〇年（一九四五）歌誌「新泉」を発行する。昭和二四年（一九四九）歌誌「潮汐」、同二九年（一九五四）「とさわ新聞」の編集発行にあたる、同四〇年（一九六五）四月歌集「土のほひ」出版、同年八月、随筆「わが文学と生活」出版、同五四年（一九七九）「昭和萬葉集」に登載した。受賞は、昭和二五年（一九五〇）一月、熊谷市文化功労者として表彰、同五三年（一九七八）第一回埼玉文化ともしび賞を受賞、同五六年（一九八一）四月、熊谷市文化功労者として表彰される。他には、昭和一一年（一九三六）二月二五日に熊谷警察署用自動車購入並ニ警察寮建築費寄附により感謝状、同一七年（一九四二）一〇月二日に県社高城神社へ幣帛料一〇〇円を

奉納、同一八年（一九四三）三月に大政翼賛会埼玉県熊谷市支部常務委員を委嘱されたことがわかる。

近世では、前掲元文五年「連判証文之事」、文政六年（二八二三）「伊勢神廟太々御神楽」、同一一年（一八二八）九月「差上申一札之事」、江戸時代推定「御用筆筒諸書物目録」、寛政五年（一七九三）から安政七年（一八六〇）までの五点の質地証文を貼り合せた巻物がある。

近代では、行政・組合の簿冊がある。大正一三年（一九二四）～昭和七年（一九三二）の中西農事組合「歳入歳出予算決算綴」、大正二四年度（一九二五）と同一五年度（一九二六）の有限責任成田信用購買販売組合の事業報告書、昭和二年（一九二七）～七年（一九三二）頃の農会・成田堰関係などの行政文書を綴った「昭和四年度諸書類・同五年一切綴込帳」、昭和二年（一九二七）～二年（一九四七）の「中西電化組合事業成績書類」、同六年（一九三二）「成田堰用水普通水利組合関係綴 灌漑費報告中西井戸組合附綴（昭和二〇年まで）」、「自昭和八年至同十年農家組合公文書綴」、同一〇年（一九三五）「農会惣代関係書類綴（昭和一五年まで）」、同一六年（一九四一）中西農事実行組合「昭和十六年度公文書綴」、同一

七年（一九四二）「中西農事実行組合公文書綴」、同一九年（一九四四）「中西農事実行組合台帳」がある。養蚕では、昭和一五年（一九四〇）～一八年（一九四三）の中西養蚕実行組合手帖がある。大政翼賛会では、昭和一七年（一九四二）一〇月一七日の「熊翼賛発第一四四号（日本刀供出方促進ニ関スル件）」がある。伊勢参宮関係は、明治四一年（一九〇八）二月大字上之講中「両宮参拝道中宿帳」、明治期「伊勢参宮金積立帳」、「伊勢参宮金銭積立帳」などがある。戦前の日誌は、大正五年（一九一六）～昭和三年（一九五六）の日誌（日付別）、昭和六年（一九三二）～同一〇年（一九三五）の日誌、昭和一一年（一九三六）～同一五年の日誌がある。社寺では、大正一一年（一九二二）一二月「郷社氏子惣代日誌覚帳」がある。教育では、大正五年（一九一六）二月、成田尋常小学校増築・修繕費の精算書がある。

鹿児島寿蔵関係では、日誌の中に、昭和二七年（一九五二）一月三日「鹿児島先生年始に来る手製の短冊掛に短冊一枚頂く」などの記述が確認できる。昭和一七年（一九四二）四月の寿蔵葉書、同年七月の鹿児島やすほ書簡、同三八年（一九六三）五月寿蔵葉書、同四〇年（一九六五）

一二月発行の「歌集やまみづ（潮汐叢書第二六篇）」の表紙見返しに寿蔵の短歌が一点貼り付けられていたり、同六一年（一九八六）三月一〇日寿蔵葉書がある。寿蔵の娘成恵関係として、昭和五六年（一九八一）一月に潮汐会鹿兒島成恵他三名からの書簡、同五九年（一九八四）の成恵年賀状がある。また、「新泉」歌稿鹿兒島先生選が多数ある。昭和三八年（一九六三）七月の短歌研究に、鹿兒島寿蔵「わが回帰の歌」（二〇〇首）がある。同年歌誌「潮汐」二〇〇号記念熊谷夏季大会が上之籠淵寺で開催され、鹿兒島寿蔵も参加し、書類もまとまっている。寿蔵の色紙は、一点確認できる。昭和四七年（一九七二）一〇月、新宿小田急百貨店開店十周年記念鹿兒島寿蔵作品展の展示図録がある。なお、寿蔵については、棚沢慶治が『埼玉史談』で論じている（「埼玉と鹿兒島壽蔵（上）」『埼玉史談』第二〇一号）、「埼玉と鹿兒島壽蔵（中）」『埼玉史談』第二〇二号）、「埼玉と鹿兒島壽蔵（下）」『埼玉史談』第二〇三号）。

棚沢慶治の著作は、「土のほひ」がある。あとがきに鹿兒島先生のこと記されている。昭和五六年（一九八一）三月「続土のほひ抄」には、棚沢慶治の略歴

が記されている。青年の頃に詠んだ短歌を後に句集にしたもの、大正九年（一九二〇）～昭和三年（一九二八）までの報知歌壇などに入選したときの新聞切抜、草稿原稿、大正三年（一九一四）～昭和一八年（一九四三）の歌集、昭和三九年（一九六四）～四二年（一九六七）の歌集がある。扇面、大正四年（一九一五）～六年（一九一七）「俳句の履歴」では、大正四年一月（一七歳）から俳句を始めるとある。他には、短冊、色紙は慶治書が大半を占める。バラのものでは、安藤野雁歌碑、安藤野雁百年祭などについて歌った色紙がある。

俳諧では、棚沢露翠「大正七年俳句集」、大正一四年（一九二五）中西競吟会同人毎回集綴「俳句集録」がある。また、明治二九年（二八九六）一月「上之・後中西佐喜床席額改風百々一集」がある。

奥原晴湖関係では、昭和戦前「奥原晴湖会設立趣意書附晴湖会規約並に展覧会規定晴湖奥原先生伝」、昭和二七年（一九五二）七月に上之関根和二郎発行人「奥原晴湖」、同五三年七月発行「女傑画家 奥原晴湖（週刊サイン行報別冊六二）」、同年一〇月の埼玉県立博物館「特別展示「奥原晴湖展」図録」がある。

写真では、大正一一年度（一九二二）の成田村青年団役員記念写真、昭和一二年（一九三七）五月の石坂養平先生文章碑建設記念写真、昭和戦前の大日本国防婦人会成田分会集合写真、成田公民学校女子部第二回卒業記念写真などがある。絵葉書は、龍淵寺四十九世再中興宝山明樹師座像、奥原晴湖遺墨展孟母断機舞原東海氏蔵、石坂養平先生文章碑全景、絵葉書帖に熊谷関係として、熊谷堂（横面）、熊谷蓮生肖像、敦盛郷肖像・玉琴姫肖像、黒谷熊谷墓、黒谷敦盛墓がある。

挿花では、「」一二年二月「」遠州古流挿花許状」は、英松庵一照から棚沢氏一智女雅に免許したものの。学術では、明治二六年（一八九三）二月「学術研究会趣旨之案文」は、発起者熊谷町大字石原倉上昌三と松崎礼三であった。祝儀・不祝儀は、大正一一年（一九二二）一月「御祝儀納入帳」がある。

現代では、戦後の日誌が、昭和二二年（一九四六）～三五年（一九六〇）のもの、昭和五五年（一九八〇）～平成五年（一九九三）のもの、平成六年（一九九四）～八年（一九九六）のものがある。農地関係では、農地買収代金支払御通知、昭和三三年（一九四八）～四〇年（一

九六五）の農地解放関係書類などがある。社寺関係では、平成三（一九九一）年一月発行「東漸寺だより」がある。

安藤野雁関係では、歌碑関係がまとまっている。中でも、昭和二八年（一九五三）の「安藤野雁歌碑建設の趣意書」、安藤野雁歌碑建設助成金交付請願書、発起人推挙状、賛助員推挙状、野雁歌碑建設発起人会の書類一括、寄付芳名簿、建設準備会宛ての持田永三郎書簡、会員申込書、同二九年（一九五四）「安藤野雁歌碑建設の記」、「野雁歌碑除幕式写真帖」、「安藤野雁歌碑除幕式記念写真」、「祝詞」、「式辞」、「祝辞」、「式次第」、除幕式費、領収証綴、除幕式案内葉書一括がある。関連として、佐々木信綱（歌人、国文学者）の書簡、歌碑建設後の昭和三一年（一九五六）に詠んだ渡辺刀水の書がある。また、安藤野雁没後百年祭関係として、昭和四一年（一九六六）三月に行われた参加者芳名簿、祭文、「野雁百年祭（野雁遺墨写真色紙）」、棚沢慶治作では「安藤野雁翁百年祭の墓前に捧ぐ」、短歌などがある。なお、平成二八年（二〇一六）一〇月に桑折町文化記念館（福島県）で展示があり、文書群の中から安藤野雁関係資料が展示された。

棚沢慶治歌碑関係は、昭和五五年（一九八〇）一〇月「棚沢慶治君の歌碑建設について」、昭和五六年（一九八一）に建設した歌碑の拓本がある。

（一）に建設した歌碑の拓本がある。

公民館関係では、昭和五三年四月「中西公民館規約」、同五四年（一九七九）四月「熊谷市公民館運営審議会規則」がある。教育では同四七年（一九七二）一月二一日「東校だより（第八七号）」がある。昭和五七年（一九八二）夏に県立熊谷高等学校野球部が甲子園に出場した記事のスクラップブック、同年九月発行の熊谷商業高等学校同窓会「同窓会名簿 創立六〇周年記念」がある。

石坂養平関係では、昭和四四年（一九六九）八月に行われた故石坂養平翁市葬の次第があり、同氏の略歴が記されている。同五〇年（一九七五）四月一七日～二二日に行われた「石坂養平先生遺墨展」の展示目録があり、棚沢慶治蔵の出品は短冊二点・横額一点・色紙一点・紙本半折一点であった。葉書では、年賀状などが多数ある。注目すべきものとして、昭和二一年（一九四六）六月の瀧脇晴華葉書がある。

新聞では、ときわ新聞の原稿及び紙面がまとまっている。中でも、斎藤紫石が埼玉名僧伝で稻村英隆について

書いた原稿がある。ときわ新聞と気ばらし通信（石坂養平編集）を綴ったものもある。バラで残存する「ときわ新聞」は、一九七号がある。昭和三九年（一九六四）五月にときわ新聞第三種郵便物の認可を受ける。ときわ会の会員名簿は、昭和二九年（一九五四）、同三七年（一九六二）、同五〇年（一九七五）のものがある。なお、ときわ新聞は、熊谷市立熊谷図書館に七号（昭和三〇年三月五日）～四四五号（平成三年一〇月一日）が収蔵されている。他には、昭和三四年（一九五九）七月「熊谷市職新聞（八号）」がある。

書画では鹿兒島寿蔵書、山岡鉄舟書、森田恒友画、跡見花蹊画、石坂養平書、林学斎双幅、瀧脇晴華書画、蜂須鳳洲書、田島一宿書などがある。

短冊は約六〇〇点あり、まとまっている。棚沢慶治書が大半で、他には棚沢慶翠、露翠、正覚など熊谷郷土の俳人のものが散見する。色紙は約五〇〇点あり、まとまっている。慶治書が大半を占め、他には、慶翠、岡田耿陽、東堂、田島一宿、鴨田宗一、小野たか子、瀧脇晴華、柳沢柳枝、葦塚東明の書が確認できる。またまりには、鹿兒島寿蔵筆とある包紙が数点あるものの、中身がなかつ

た。まとまり以外の色紙としては、田島一宿などがある。

写真では、昭和五三年（一九七八）二月一日の龍淵寺庫裡落成式などがある。刊本では、昭和三二年（一九五六）一月石坂養平著「幸福論」、同三五年（一九六〇）四月「大麻生郷土史稿」、同四五年（一九七〇）六月発行「肥塚の今昔」、同五五年（一九八〇）二月「書業五十年記念 柴田侑堂書作展」がある。

本文書群は、近代、特に現代の熊谷の文化を牽引した一人棚沢慶治に関連した文書が多く大変貴重である。整理を終えたため、令和四年五月に所蔵者へ返却した。なお、返却後に一部の文書が市立熊谷図書館展示「短歌と紙塑」鹿児島寿蔵と熊谷展」において展示された。

（文責 水品 洋介）

柿沼 須永昇家文書 三九五九点

平成二四年（二〇一二）五月に借用した近世・近代・現代文書である。作成年代の内訳は、近世一二八九点・明治期一〇三三点、大正期四一五点、昭和期二二四点、近代推定八七五点、年代不詳一二三点となる。割合は、近世は全体の三三％、近代（年代不詳含む）は六七％と

なり、近代文書が中心といえる。特徴は、須永家が柿嶋屋の屋号を持つ商家であったため、全体を通じて商売関係の文書が大半を占めるほか、書籍・絵葉書も多いことが挙げられる。初見は、刊本では、万治二年（二六五九）七月「三教指帰註巻第五」、古文書では享和三年（二八〇三）の竖帳の表紙と思われる一紙物である。

近世は年代が判明する文書が非常に少なく、お金の単位などから近世と推定できるに留まるものが多い。書出帳は、天保二年（二八四二）から明治一六年（二八八三）までの「万年帳」をはじめ、安政三年（一八五六）からものが散見する。近世の仕入帳は三冊現存する。安政期（一八五四～一八六〇）のものが、かろうじて年代が判明する。送り状五六点（近世五〇・近代六）、送り状三六二点（近世三四〇・近代二二）がある。取引先は江戸日本橋の木村屋勘蔵、伊勢屋徳兵衛、小舟町の木屋清兵衛などで、江戸に集まった魚類を送った記録が多数ある。積付覚が五〇点（近世三六・近代一四）あり、近世は江戸小舟町の木屋清兵衛、竹村弥右衛門からのものが大半、近代では東京小網町の伊勢屋吉兵衛、同町の共益回漕会社からの覚が多い。

近代では、送り状や覚などは、年代が判明するものは少なく、お金の単位などから近代と推定するに留めた文書が多い。近代推定の大福帳が二冊残存する。仕入帳は一二点ある。年代が判明するものとして、明治八年（一八七五）、大正二年（一九一三）、同三年（一九一四）などが挙げられる。葉書類は、注文の追加、品質不備で再出荷を願ったものが大変多い。特に、小鹿野町の石田屋伝平からの葉書が多く、魚や玉子の注文で品物が腐っていた事例が散見し、当時の状況の一端がうかがえる。営業税については、近代推定「営業税調書」は、柿沼村納人が記されており、須永常吉は穀物仲間売（二円五八錢）、同小売（二円九五錢）、桶小売（二四錢）の三種類の営業税を納入していたことがわかる。

須永佐三郎が丸善株式会社福岡支店で勤務していた。大正二年九月に撮影した、福岡支店が開店したときの写真がある。写真は佐三郎をはじめ、同僚の吉田秀雄ら一名が写ったものであった。その後は、福岡市上西町丸善株式会社福岡支店内の須永佐三郎宛ての書状や葉書が三点ある。佐三郎は福岡支店で勤務した後、京都支店でも勤務していたようであるが、年代を特定できなかつた。

本文書群は絵葉書コレクションの一面があり、全体で約三五〇点ある。郵便葉書として使用された絵葉書は五点、未使用の絵葉書は三〇〇点近くあるが、旅行等で赴いた観光地からの記念絵葉書が多く、平和記念東京博覧会、高崎地方専売局、房州名勝絵葉書等があるが、熊谷に関連したものはない。

書籍は、大きく刊本と雑誌に分類できる。刊本は五八一冊ある。近世は七七冊と、全体としては少なく、初見の万治二年七月「三教指帰註巻第五」をはじめ、嘉永元年（一八四八）三月「教典余師易経」、安政五年（一八五八）正月「教典余師書経」等がまとまっている。残り五〇〇冊近くは近代以降のもので、小学読本や教科書類がまとまっている。

雑誌は一五五冊ある。明治二年（二八八九）六月「筆之力 第一号（再板）」をはじめ、「第拾式回」早稲田商業講義、「養真」などがまとまっている。

本文書群は、近世・近代の柿沼の商家文書として貴重である。整理が終了したため、令和四年五月に所蔵者へ返却した。

（文責 水品 洋介）

大麻生馬場國夫氏収集文書 一二点

令和四年一〇月に借用した昭和戦前・戦後期の収集文書群である。収集文書の出所は三ヶ尻萩野家であり、同家解体前に、所蔵者が渡辺華山に關係する史料を譲り受けたという。作成年代は、昭和戦前期二点、昭和戦後期が一〇点となる、近代・現代文書である。特徴は、渡辺華山に關係する刊本や、ガリ版刷りの印刷物である。初見は昭和一六年（一九四一）一月、大須賀初男著「華山先生の生涯（再版）」である。戦後では、三ヶ尻龍泉寺で作成した「渡辺華山及勝手改善の手引」、「渡辺華山先生双雁図復帰記念」などがある。中でも、昭和三一年（一九五六）一月「三余会々員名簿」があり、戦後村落における文化活動の一端を示す史料として貴重である。なお、三ヶ尻萩野家文書は本文書群とは別に市史編さん室でも借用しており、合計三三七五点に及ぶ膨大な文書群になる。この文書の整理は、今後の課題としたい。

本文書群は整理が終了したため、令和四年一〇月に所蔵者へ返却した。

（文責 水品 洋介）

大麻生馬場國夫家文書 一四八点

令和四年一月に借用した近代・現代文書である。初見は、明治四一年（一九〇八）三月の「修業証書」である。明治・大正期は、卒業証書類や褒状が多い。注目すべき史料として、三尻無尺株式会社関係が多くある。所蔵者の父良作が同社に勤めていた関係で、昭和戦前期の無尺契約証や集金帳がままとまっている。その後、同社は大本無尺株式会社になり、良作への任命状や支給状がままとまっている。この会社は、幾多の合併を経て、今日の三井住友銀行である。また注目すべき史料として、石原砂利株式会社の営業報告書が三冊残存する。これは、大正一五年（一九二六）一〇月、昭和二年（一九二七）一〇月のもので、株主名簿も並記されており、当時の会社状況を把握できる史料として貴重である。

本文書群は、大麻生周辺の会社関係史料として大変貴重である。整理が終了したため、令和四年一二月に所蔵者へ返却した。

（文責 水品 洋介）

大麻生 伊佐山正家文書 一四〇点

(文責 水品 洋介)

令和四年一二月に借用した近代・現代の文書群である。初見は、明治二五年(一八九二)～二六年(一八九三)までの内容が綴られている「地所売渡証綴」である。戦前の史料は各種賞状が多く、白菜、大根、甘藷、鶏卵、鮮牛などについてのものがある。戦後の史料で分量が多いのは、独秀流南禅教会に関連したもので、奉詠大会や讃歌等の史料が平成まで続く。特に注目したいのは、昭和四一年(一九六六)八月一八日「陳情書」であり、これは大麻生堰用水路屋敷堀分水ヶ所の改造のため、大麻生堰用水路土地改良区理事長伊佐山近三郎他一八名により作成したものとして貴重である。地図では、昭和五一年(一九七六)に丸山清編「熊谷市大麻生全図」が縮尺二四〇〇分の一で制作されている。また、近代推定であるが、「字限編図以耆間曲尺為耆分」は大字大麻生の字ごとに作成された編図で、壱下郷東から三十三上大境まで網羅した地図として大変貴重である。

本文書群は近代・現代の大麻生を概観することができるといえる。整理が終了したため、令和五年三月に所蔵者へ返却した。

下川上浄泉寺文書 五一点

令和二年(二〇二〇)一月に借用した近世・近代文書である。作成年代の内訳は、近世四一点、明治期八点、昭和期一点、年代不詳一点であり、近世文書中心の文書群である。初見は、内容では慶長九年(一六〇四)一月「権現公様朱印状写」で、原本では元禄一六年(一七〇三)二月「武州埼玉郡下川上村浄泉寺境内絵図」である。文書群の特徴は、寺院文書としての性格が強く、また忍藩との関係を示す史料も散見する。

近世では、文政一一年(一八二八)七月「浄泉寺由緒書上帳」が残存する。また、朱印状写が二三通残存する。朱印状目録が天明七年(一七八七)と天保九年(一八三八)の二通、慶応四年六月「旧幕府判物写 拾式通」がある。忍藩関係は、忍城主阿部飛騨守正允からの書状が残存する(後年の写しも残存)。年代は、正允が寛延元年(一七四八)に忍藩を相続した後から没年の安永九年(一七八〇)までに作成された一八世紀の書状であり、内容は、入院(僧が寺院に入り住職となること)に際して

江戸藩邸に胡桃一箱を持参したことへの礼状である。絵図では、初見の元禄一六年（一七〇三）二月「武州埼玉郡下川上村浄泉寺境内絵図」がある。この絵図は大型で彩色も施されており、現在の浄泉寺内と対照することができ貴重である。記録では、寛政一二年推定「重要書籍」には、浄泉寺一九世高潤が記した忍藩主目見献上をはじめ、正由（阿部正由）、友古、服興章（儒者服部新右衛門）、信知（書物番外池助太夫）、時輔（書物番岩崎弥三郎）、秋元淵（奥医師秋元春龍）らが浄泉寺で雅会を催した時の句合、最後に在寺社江・覚が記されている。他には、弘化三年（一八四六）「諸雑集」があり、神護山山主が記したものである。龍淵寺関係が、まとまっている。嘉永二年（一八四九）の太平山万部祠堂金の取替議定、文化一二年（一八一五）三月推定の駆込訴訟瑞岩寺鉄心願書写し、住職交替についての書状などがある。今井村弥勒寺は、元文三年（一七三八）一〇月の弥勒寺再興願いや、寛政七年（一七九五）九月推定「今井村天神河原天満山弥勒寺挾割帳」がある。

近代では、明治二年（一八六九）に作成した由緒上書などを綴った書類綴がある。明細書上は同五年八月と、

同一二年一月が残存する。一冊ものとしては、明治一九年（一八八六）「浄泉寺記録」があり、同二九年までの記録をまとめて清書したもので貴重である。内容は、新編武蔵風土記稿の抜写到始まり、周辺各村地誌材料編冊の抜写、歴代住職遷化書上、寺籍財産明細帳、上知官林之儀二付上申、員外官林取調書、建物絵図面、取調書などがあり、各所に浄泉寺の由緒などが記されている。他には、昭和一八年（一九四三）六月の林有章書状があり、これは忍城主が浄泉寺を訪問して高潤住職と問答をした際の記録が寺に保存してあるか、問合せを行った書状である。忍藩八代藩主阿部正由は学問に堪能で、浄泉寺を訪問して住職徳祐高潤と問答し、答が気に入る二度三度と通ったという。その時の記録が問答筆記としてお寺に存在しており、かつて埼玉県で写取にきたことがあったという。また、問答筆記ではないが、本文書群には阿部正由と家臣が浄泉寺に訪問して句合を行った時の記録が残っている。他には、明治八年三月の「議定」がある。浄泉寺住職小林春雄ら八名で作成したもので、内容は、六ヶ条で太平山に専門学所を設けることや、教議の諸入費、宗学について定めている。

本文書群は、近世・近代の寺院文書として大変貴重である。整理が終了したため、令和五年三月に所蔵者へ返却した。

(文責 水品 洋介)

浄泉寺所蔵旧個人熊谷関係文書 二四点

令和二年(二〇二〇)一二月に借用した近世・近代文書である。作成年代の内訳は、近世一七点、明治期六点、近代推定一点となり、近世文書中心の文書群である。初見は、天和元年(二六八二)一二月「忍領太田村五人組帳」である。本文書群は、旧個人が収集した古文書を住職が譲り受け、その中から熊谷地域に関連した文書のみを抽出したものである。出所は、永井太田村、上之村などのものが確認できる。

永井太田村関係では、寛保二年(二七四二)一二月「田畑御年貢上納仕上ヶ帳」は、惣百姓らが旗本用人に宛てた年貢皆済目録である。五人組帳は、天和元年(一六八一)、元禄四年(二六九二)、貞享二年(二六八五)、貞享四年(二六八七)、寛延二年(二七四九)、慶応二年(一八六六)の六冊がある。文化八年(二八一二)八月「議

定取極之事」は、太田村を含めた三三村九四名の組合が連印したもので、内容は浪人取締に関する組合議定である。明和元年(一七六四)一二月、村内の百姓夫婦が家出した時の尋ね覚があり、六ヶ村(現深谷市)からの返信内容が控えられている。

上川上村関係は、文化七年一二月「熊ヶ谷宿助郷人馬出入一件扣帳 訴状済口議定」がある。内容は、同年三月柿沼村・小曾根村・新島村・原島村・代村の五ヶ村が人馬出入で道中奉行に訴えた一件の控えである。他には、天保三年(一八三二)「中山道熊谷宿助成金取捌方規定書」があり、助郷三ヶ村惣代に上川上村名主八木原三郎右衛門の名が確認できる。

上之村関係は、元文二年(一七三七)一二月の上之村年貢割付状の写しがある。

深谷市関係では、明和元年(一七六四)一二月の写本「朝鮮人來朝御国役金并伝馬騷動記」は写本で、針ヶ谷村(現深谷市)の榛谷氏が所蔵していたものである。文政一〇年(二八二七)七月「備前堀一件全」の写しがある。備前一件の中は「差上申一札之事」、文政一〇年七月の「議定一札之事」、同年同月の「乍恐以書付を奉願上候」

の三件分の内容で、榛沢村（現深谷市）武井伝次郎なる人物が写したものである。

行田市関係では、「中山道熊谷宿伝馬助郷御請書」は、南河原村（現行田市）名主民之助が写したもので、年代がわかる記録は、文政八年（一八二五）四月九日・天保七年（一八三六）三月二〇日の差上申一札之事、嘉永三年（一八五〇）正月の栗橋中田加助郷一件書類扣などがある。

その他、熊谷県時代の活版布達があり、いずれも初代県令河瀬秀治時代のものである。

本文書群は、近世・近代の熊谷地域の古文書が、断片的ながら包括してあるため貴重である。整理が終了したため、令和五年三月に所蔵者へ返却した。

（文責 水品 洋介）

浄泉寺所蔵広瀬 荒川家文書 一五〇点

令和二年（二〇二〇）一月に借用した近世・近代文書である。作成年代の内訳は、近世八五点、明治期四五点、大正期一四点、昭和期一点、近代推定五点となり、近世文書中心の文書群である。初見は、元禄一四年（一七〇一）一二月「田畑屋敷譲り申手形之事（合一反四畝

二三歩・金七両）」である。本文書群は、広瀬村の名主荒川家に伝来したもので、流出した後、浄泉寺の住職が購入して、現在は同寺にて保管されている。

近世は、年貢関係では、享保七年（一七二二）一〇月の「寅御年貢割付之事」が一点と、宝暦一三年（一七六三）正月「田畑御年貢諸出銭請取通帳」がある。名寄帳は、享保一一年（一七二六）と宝暦一三年推定の二点がある。取締は、天保四年（一八三三）九月「御取締筋御改革再御取調議定連印帳」がある。塚樋は、天保六年六月「二重塚樋一件押切村より差上候願書之写」があり、押切村年番名主惣助が訴訟人として一四村四名を相手取り奉行所へ提出した願書の写しである。譲証文は、初見の元禄一四年をはじめ、宝暦八年（一七五八）、寛政一〇年（一七九八）、文化四年（一八〇七）、文化六年（一八〇九）、文政期六点、天保二年（一八三二）、弘化四年（一八四七）、安政二年（一八五五）のものがあり、近世中期から後期にかけてのものが確認できる。質地証文は嘉永三年（一八五〇）と同五年（一八五二）の二点、借用証文は嘉永元年（一八四八）の一点がある。道中日記は、天保一四年（一八四三）「伊勢参宮・西国巡礼道中日誌」、「道中日

記覚帳」は伊勢参宮をはじめ各地道中の記録であり、関連として「参宮餞別覚帳」がある。祝儀は、文化九年（一八二二）二月「御祝儀覚」、天保四年（一八三三）「祝儀受納覚帳」、同七年（一八三六）極月「祝儀受納覚帳」などがある。不祝儀は、天明六年（一七八六）八月「くやみ覚」、文政二年（一八一九）二月「春林智香禅定尼（くやみ香伝覚）」、天保一〇年（一八三九）九月「香代悔受納覚帳」などがあり、いずれも合冊にて綴られている。文化では、文久元年（一八六一）六月「筆塚諸人用帳」は、誰の筆塚かは不詳だが、江戸の雪城（中沢雪城カ）、江戸の清軒（寺門静軒カ）らが寄附しており、熊谷周辺では石原村、久下村、小嶋村、妻沼村は長四郎（小池家）などの名が確認できる。俳諧では、天保一三年（一八四二）正月「四季出句扣書并二聞書覚」、同年同月「乱題句合帳」、江戸時代推定「衆儀評（句集）」、同「秋乱題三句咄」がある。

近代では、村政に関する文書は、ほとんどない。荒川家の土地、金融、家などに関連した文書が残存する。土地については、明治三年（一八七〇）四月「田畑所持高覚」によると、荒川家の所持高は、田一一筆合八反五畝二二

歩、畑一一筆合三反二畝二九歩であった。蚕穀物売上は、明治二四年（一八九一）「蚕穀物売上控」、同四二年「蚕穀物売上金并収入金扣帳」があり、いずれも大麦、小麦、米などの穀物売上、春秋蚕収穫などが記されている。年中諸入費は年中方控帳の名で、明治三年、同六年（一八七三）、同一〇年（一八七七）の三冊、年中諸入費扣帳の名で明治四〇年（一九〇七）、同四四年（一九一一）、同四五年（一九一二）と大正一五年（一九二六）の一七冊が残存する。徴兵では、明治二七年（一八九四）の徴兵検査施行の達など、包紙一括でまとまっている。祝儀は、明治一六年（一八八三）一月「御祝儀受納控帳」、同一九年（一八八六）二月「御祝儀受納扣帳」、同二年（一八八八）「御祝儀金受納扣帳」があり、不祝儀は、明治四年（一八七二）二月「梅香料遣帳」がある。

本文書群は、近世・近代の広瀬の名主・戸長役場文書として貴重である。整理が終了したため、令和五年三月に所蔵者へ返却した。

（文責 水品 洋介）

下奈良 松村修家文書 七三点 一四三頁

石原 岩田豊家文書 五一点 一四七頁

小八林 堀和哉家文書 一一〇点 一四九頁

市内 個人旧蔵文書 二点 一五〇頁

上川上 姉崎正一家文書 三点 一五一頁

青山 根岸友憲家文書 三六九二点 一五二頁

最後に、古文書等の調査に御協力いただいた所蔵者、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

Ⅱ 行政文書の整理・保存

熊谷市文書管理規程に基づき、保存期限満了の行政文書が一括廃棄される際に、市史編さん室では歴史公文書等として重要な文書を収集保存している。

本年度は、令和四年三月末で保存年限満了となる文書

から、保存箱数で一三五箱の行政文書を収集した。内訳は、保存年限五年のものが六〇箱、一〇年が五三箱、三〇年（旧永久保存）が二二箱であった。

収集後の整理作業は、令和四年度分が終了し、中性紙保存箱で三八箱となった。

（文責 山本喜久治）

Ⅲ 学校資料調査

市史編さん室では、平成二五年度から市内の小中学校の所蔵資料調査を実施している。各学校には、創立以来の歴史的資料のみならず、地域の歴史を知ることができ、貴重な資料が保存されている場合が多いことから、市史編さん事業の一環として順次調査を進めている。

なお、今年からは、『熊谷市史 資料編6 近代・現代1（熊谷地域編上）』及び『熊谷市史 資料編7 近代・現代2（熊谷地域編下）』の刊行に向けて、高等学校にも対象を広げた。今後は、必要に応じて大学や幼稚園等、市内の他の教育機関についても調査を実施する予定である。

一、小学校

(実施校・日時)

- ・ 市立星宮小学校 (令和四年七月二一日)
- ・ 市立佐谷田小学校 (令和四年七月二二日)
- ・ 市立桜木小学校 (令和四年一二月一四日)
- ・ 市立熊谷南小学校 (令和四年一二月一四日)

(参加者)

熊谷市史編集委員 (近代・現代専門部会教育分野担当)、事務局

(調査方法・内容)

各校で、学校沿革誌をはじめとした学校の歴史に関する資料の他、記念誌等の編さん物、写真、学校新聞等について、編集委員の指示のもと写真撮影を実施した。

佐谷田小学校では、明治末期から大正初期にかけて小学校で編さんされた『佐谷田村郷土誌』『佐谷田村教育誌』『佐谷田村人物誌』等、地域の貴重な歴史資料が保存されており、全て撮影を行った。

二、高等学校

- ・ 県立熊谷女子高等学校 (令和四年七月二八日)

事務局四名で訪問し、主にさくら会館に展示されていた大正期から昭和一〇年代までの資料(写真・卒業記念アルバム・学友会誌『呉竹』・同窓会誌『さくら会報』)等を撮影した。

他に、図書室の郷土資料及び図書、日本史部作成『もの、ふ』等を調査した。

(文責 小林久美子)

IV 市政宅配講座等への派遣

令和四年

三月三日 三尻中部集落センター 担当 水品

市政宅配講座「三尻村の歴史」

四月二日 市立熊谷図書館 担当 蛭間

直実・蓮生を学ぶ会「中世の村岡について」

四月一九日 市立勤労会館 担当 蛭間

市政宅配講座「鎌倉殿の一三人の時代の熊谷武士」

五月一五日 太田公民館 担当 小林

市政宅配講座「写真に見る近代の太田村と偉人たち」

六月二日 熊谷税務署 担当 小林

市政宅配講座「明治・大正・昭和の熊谷の歴史」

六月一九日 秦公民館 担当 仲泉

市政宅配講座「江戸時代の秦地域 その②」

六月二七日 緑化センター 担当 蛭間

熊谷雑学研究会講座「平家物語「実盛」の段を考える」

七月一五日 手島地区集会所 担当 水品

市政宅配講座「井田友平の生涯とメヌマポマードの創

始」

八月三〇日 小島公民館 担当 仲泉

小島公民館講座「歴史講座 小島地区の歴史」

九月二日 男沼公民館 担当 小林

男沼公民館講座「男沼地区の江戸から明治期の歴史

― 備前渠用水の歴史と男沼門樋について―

九月四日 太田公民館 担当 仲泉

市政宅配講座「太田地区の江戸時代―備前渠再興と太

田地区の人びと―

九月二七日 江南公民館 担当 蛭間

江南公民館講座「鎌倉殿の「三人」の時代に活躍し

た熊谷武士」

一〇月一四日 大東文化大学東松山キャンパス 担当 蛭

間

大東文化大学オープンカレッジ「埼玉の近現代史を

彩った女性たち」荻野吟子の生涯 歴史資料から見え

てきた新たな人物像」

十一月二〇日 秦地区各所 担当 蛭間

市政宅配講座「地域の歴史発見（秦地区）」

十一月一七日 さくらめいと 担当 水品

直実市民大学講座「ポマード王 井田友平について」

十一月一九日 行田市郷土博物館 担当 蛭間

行田市郷土博物館友の会 ふるさと講座「平家物語

「実盛」の段を考える」

十一月二四日 妻沼中央公民館 担当 蛭間

妻沼中央公民館歴史講座「手紙からみる荻野吟子の交

友録」

十二月一日 妻沼中央公民館 担当 水品

妻沼中央公民館講座「ポマード王・井田友平の生涯」

十二月四日 秦公民館 担当 仲泉

秦公民館歴史講座「江戸時代の秦地域 その③」

十二月二六日 熊谷市緑化センター 担当 小林

熊谷雑学研究会講座「熊谷の学校給食の歴史」

V 市史編さん業務日誌

【令和三年度】

- 1・12 『熊谷市史資料編5 近世3（妻沼地域編）』（以下、『資料編5』）巻頭写真撮影（埼玉県立文書館（以下、県立文書館））
- 1・13 史料返却（宮代町郷土資料館）
- 1・17 熊谷町役場文書調査（市立熊谷図書館（以下、熊谷図書館））
- 1・19 埼玉県公衆浴場業生活衛生同業組合調査（さいたま市）
- 1・20 弥藤吾森田安彦氏収集文書返却・追加借用
- 1・24 妻沼聖天山奉納絵馬撮影（妻沼展示館）
- 1・25 第六回『熊谷市史調査報告書 荻野吟子―その歩みと出会い―』（以下、『荻野吟子調査報告書』）編集会議（オンライン）
- 1・27 『熊谷市史料集7 熊谷自由民権運動史料1「七名社」の時代』記者発表（熊谷市役所本庁舎（以下、本庁舎））
- 1・30 近世専門部会巻担当者会議（熊谷図書館）
- 1・31 伊勢町見晴湯資料返却
- 2・7 熊谷町役場文書調査（熊谷図書館）
- 2・8 棟札等調査（上江袋観音堂）
- 2・9 三ヶ尻荻野家文書追加借用
- 2・9 江波荻原彌一家文書返却
- 2・13 第六回近世専門部会会議（荒川公民館）
- 2・15 円光伝権田栗毛供養塔調査
- 2・22 第二回仏像・仏画専門部会編集会議（妻沼中央公民館）
- 2・21 曙町齊藤忠彦家文書返却
- 2・22 古文書等調査（熊谷図書館）
- 2・22 第二回『熊谷市史調査報告書 仏像・仏画2』編集会議（妻沼中央公民館）
- 3・2 第七回『荻野吟子調査報告書』編集会議（オンライン）
- 3・3 市政宅配講座講師派遣（三尻中部集落センター）
- 3・4 新聞記事調査（県立文書館）
- 3・8 西別府杉田氏収集文書（複写）借用
- 3・9 近世石碑調査（四方寺、妻沼瑞林寺）
- 3・16 資料調査（横浜開港資料館）
- 3・18 資料調査（国立国会図書館）
- 3・28 第三回仏像・仏画専門部会編集会議（妻沼中央公民館）
- 4・2 直実・蓮生を学ぶ会講師派遣（熊谷図書館）
- 4・10 近世専門部会巻担当者会議（立正大学品川キャンパス（以下、立正大品川））
- 4・14 四方寺吉田康久家供養塔調査
- 4・18 第八回『荻野吟子調査報告書』編集会議（オンライン）
- 4・19 市政宅配講座（市立勤労会館）
- 4・20 深谷市坂本家文書調査（深谷市旧八基公民館）
- 4・22 仏像・仏画専門部会調査（永井太田田沼家、中奈良明和館（明戸集会所））
- 4・26 永井太田浦部家資料返却
- 4・27 資料調査（国立国会図書館）
- 5・9 歴史公文書等選別・収集（10日・11日・16日、本庁舎ほか）
- 5・12 青山根岸友憲家文書調査報告（重田正夫編集委員）
- 5・15 市政宅配講座講師派遣（太田公民館）
- 5・18 玉作須藤牧彦家文書調査報告（本庁舎）
- 5・19 令和四年度埼玉県地域史料保存活用連絡協議会（以下、埼玉協）総会・記念講演会（聴講）（県立文書館）
- 5・22 『資料編5』における人権関係史料の掲載に関する協議（荒川公民館、

6・17	新興古書大即売展〔史料購入〕(東)								
6・16	『資料編5』の編集に関する協議(妻沼展示館)	7・27	資料調査(県立文書館)	8・23	立正大学インターンシップ実習生受入れ				
6・15	四方寺旧吉田家屋敷神石塔等調査	7・26	資料調査(県立文書館)	8・18	新聞記事調査(県立熊谷図書館)				
6・14	郷土史講座「熊谷の中世石造物」(講師＝栗岡眞理子編集委員)(熊谷図書館)	7・25	熊谷雑学研究会(緑化センター)	8・18	熊谷市史編集委員の委嘱に関する説明(八戸昭一氏)(県環境科学国際センター)				
6・13	第九回『荻野吟子調査報告書』編集会議(オンライン)	7・18	近代・現代専門部会会議(市立商工会館)	8・17	新聞記事調査(埼玉県立熊谷図書館(以下、県立熊谷図書館))				
6・13	小八林堀和哉家文書借用	7・15	市政宅配講座講師派遣(熊谷市長寿クラブ連合会大里支部第二クラブ)(手島集会所)	8・17	熊谷市史編集委員の委嘱に関する説明(渡来靖氏)(立正大熊谷)				
6・6	郷土史講座「熊谷の中世石造物」(講師＝伊藤宏之元編集委員)(熊谷図書館)	7・12	『荻野吟子調査報告書』に係る調査(群馬県千代田町光恩寺ほか)	8・15	新聞記事調査(市立熊谷図書館)				
6・2	市政宅配講座講師派遣(熊谷税務署)	7・3	『荻野吟子調査報告書』等に係る調査(北海道せたな町、今金町(7日))	8・12	第一〇回『荻野吟子調査報告書』編集会議(オンライン)				
6・2	東別府権田不二夫家文書調査	6・30	小八林堀和哉家文書に関する調査報告、同文書寄附受入れ(妻沼展示館)	8・10	立正大学古文書研究会との共同事業(妻沼展示館、熊谷市スポーツ文化村くまびあ(以下、くまびあ)(12日))				
5・31	郷土史講座「熊谷の中世石造物」(講師＝野口達郎元編集委員)(熊谷図書館)	6・28	仏像・玉井桐集会所	8・10	市政宅配講座講師派遣(熊谷図書館大井副館長)(久下公民館)				
5・30	仏像・仏画専門部会調査(西別府安楽寺、九品仏堂)	6・27	熊谷雑学研究会講座講師派遣(緑化センター)	8・8	熊谷雑学研究会講座(聴講)(緑化センター)				
5・29	市政宅配講座講師派遣(秦公民館)	6・20	(仮称)地形・地質専門部会に関する打合せ(立正大学熊谷キャンパス(以下、立正大熊谷))	8・7	妻沼地域文化財調査研究会講演会アトバイザー派遣(妻沼中央公民館)				
5・25	中西棚沢家・柿沼須永家文書返却	6・28	熊谷雑学研究会(緑化センター)	8・4	佐谷田小学校資料返却				
5・24	郷土史講座「熊谷の中世石造物」(講師＝磯野治司元編集委員)(熊谷図書館)	6・20	京古書会館	8・1	熊谷雑学研究会(緑化センター)				
5・24	郷土史講座「熊谷の中世石造物」(講師＝磯野治司元編集委員)(熊谷図書館)	6・20	京古書会館	8・1	熊谷雑学研究会(緑化センター)				

- 8・31 熊谷市史編集委員の委嘱に関する説明〔井上素子氏、北沢俊幸氏〕(埼玉県立自然の博物館、立正大熊谷)
- 8・31 立正大学古文書研究会との共同事業(妻沼展示館、くまびあ〔9月5日〕)
- 9・2 市政宅配講座講師派遣(男沼公民館)
- 9・4 市政宅配講座講師派遣(太田公民館)
- 9・5 借用史料の書籍への掲載に係る説明(日向船田家)
- 9・7 俵瀬地区聞きとり調査(俵瀬公民館)
- 9・7 荒宿地区聞き取り調査(荒宿公民館)
- 9・8 葛和田地区(宿通り)聞き取り調査(秦公民館)
- 9・8 新聞記事調査(県立文書館)
- 9・9 新聞記事調査(県立文書館)
- 9・12 仏像・仏画専門部会調査(須賀広釈迦寺)
- 9・13 新聞記事調査(県立熊谷図書館)
- 9・15 近代・現代専門部会市行政文書調査(妻沼展示館)
- 9・20 新聞記事調査(市立熊谷図書館)
- 9・21 近代・現代専門部会資料調査(埼玉県立歴史と民俗の博物館)
- 9・26 新聞記事調査(市立熊谷図書館)
- 9・26 弥藤吾森田安彦氏収集文書追加借用
- 9・27 市政宅配講座講師派遣(江南公民館)
- 9・28 新聞記事調査(県立文書館)
- 10・3 近代・現代専門部会資料調査(熊谷図書館)
- 10・3 弥藤吾森田安彦氏収集文書追加借用
- 10・5 新聞記事調査(県立文書館)
- 10・5 美土里町小沢家資料調査
- 10・7 近代・現代専門部会市行政文書調査(妻沼展示館)
- 10・12 新聞記事調査(県立熊谷図書館)
- 10・13 第一回(仮称)地形・地質専門部会会議(江南文化財センター)
- 10・14 大東文化大学オーブンカレッジ講師派遣(同大学東松山キャンパス)
- 10・17 第一回「荻野吟子調査報告書」編集会議(オンライン)
- 10・20 第一回近世専門部会巻担当者会議(オンライン)
- 10・20 近代・現代専門部会市行政文書調査(妻沼展示館)
- 10・23 第一回近世専門部会会議(荒川公民館)
- 10・24 仏像・仏画専門部会調査(中奈良大江指観音堂、同馬場集会所、池上梅岩院)
- 10・25 新聞記事調査(県立熊谷図書館)
- 10・25 西別府杉田氏収集文書返却
- 10・25 東別府湯殿神社調査
- 10・25 葛和田舞原正家資料調査
- 10・26 熊谷市郷土文化会大里用水路現地研修会(深谷市)妻沼地域)
- 10・27 近代・現代専門部会市行政文書調査(妻沼展示館)
- 10・30 『熊谷市史 資料編7 近代・現代2 熊谷地域編下』担当者会議(妻沼展示館)
- 10・31 大麻生馬場國夫氏収集文書返却
- 11・8 文書調査(東京都公文書館)
- 11・10 妻沼歴史散歩の会講師派遣(秦地区)
- 11・10 新聞記事調査(県立熊谷図書館)
- 11・15 東京都府中市郷土の森博物館所蔵根岸武香旧蔵拓本調査(妻沼展示館)
- 11・16 近代・現代専門部会市行政文書調査(荒川公民館)
- 11・17 直実市民大学講座講師派遣(熊谷文化創造館さくらめいと)
- 11・18 埼玉協主管課長等研修会(東京都公文書館)

- 11・19 行田市郷土博物館友の会主催ふるさと講座講師派遣（行田市立郷土博物館）
- 11・23 第一回熊谷市史編さん委員会（熊谷図書館）
- 11・24 妻沼中央公民館歴史講座講師派遣（妻沼中央公民館）
- 11・24 近代・現代専門部会市行政文書調査（市立熊谷図書館）
- 11・28 近代・現代専門部会資料調査（熊谷図書館）
- 11・29 仏像・仏画専門部会調査（西別府観音堂、川原明戸明道寺）
- 11・29 第二回近世専門部会巻担当者会議（立正大品川）
- 12・1 妻沼中央公民館歴史講座講師派遣（妻沼中央公民館）
- 12・1 四方寺旧吉田家屋敷神石塔等調査
- 12・4 市政宅配講座講師派遣（秦公民館）
- 12・5 大麻生馬場家文書返却
- 12・9 新興古書大即売展「史料購入」（東京古書会館）
- 12・12 大麻生伊佐山家文書借用
- 12・12 仏像・仏画専門部会調査（万吉見性院）
- 12・13 古文書調査（県立文書館）
- 12・14 学校資料調査（桜木小学校、熊谷南小学校）
- 12・15 資料調査（熊谷図書館）
- 12・20 四方寺旧吉田家屋敷神石塔等調査
- 12・22 直実市民大学受講生見学来館対応（妻沼展示館）
- 12・26 熊谷雑学研究会講座講師派遣（緑化センター）
- 12・27 行田市郷土博物館資料調査

※本業務日誌は、事務局が関わったものについて記載しています。